



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間刊共1100円

道標



Yet... Joy! Hope! Gratitude!

祈りの小教区づくりに進進しよう

教区評議会で「信仰年」への心構えを探る

全小教区の主任司祭と信徒代表、これに司教任命を受けた司祭、信徒が一堂に会し、教区の重要な問題を話し合う教区評議会が九月九日(日)、教区本部とザビエル教会を会場に開かれた。今回のテーマは「キリストを信じる喜び」で、教皇が「信仰の深刻な危機」を乗り越えるために定めた「信仰年」(十月十一日から来年十一月二十四日)に向けて、教区民が歩むべき道を模索する貴重な会議となった。

午前九時からささげられたミサで始まった今回の教区評議会には五十三人が出席した。評議員以外にも開放された午前十一時から司教講話には百人余の一般の信者も駆けつけ「祈りの小教区づくり」について司教の提案に耳を傾けた。

郡山司教は教区評議会を前に実施した小教区の現状を探るアンケートの結果をもとに、信仰の危機が叫ばれる要因に高齢化、ミサの参列者減少を含む教会離れ、共同体意識の希薄化、地域の学校が優先され教会学校が成り立たない現状と若者が来づらくなっている状態や無関心や暖かみが感じられない、コミュニケーション不足などに表される教会の冷たいとも思われる体質を挙げた。その上で、信徒が学習できる場を増やすこと、またテ



鹿兒島教区の前教区長・パウロ糸永真一名誉司教(八十四歳)が、九月十四日(金)司祭叙階六十周年(ダイヤモンド祝)を迎え、九月十七日(月)午後、鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂でその記念のミサをささげた。

司祭叙階六十年を記念 糸永真一名誉司教がダイヤモンド祝

などを打開策として紹介し、祈る習慣について信徒が見直すべき機会が来ていると強調した。そして那覇教区や大分教区を例に挙げ教区全体で取り組む「子ども聖書学校」の開催や家庭での祈りの集い、家族での聖体訪問などの実施を提案、「祈りの力をもつと信じ、信徒が執り成し者として十分に働けるよう教区全体で、また個人個人で取り

司教は、一九四六年に福岡聖スルピス大神学院に入学し在学中にモントリオール大学に留学した。そこで神学修士の学位を取得し、一九五二年九月十四日モントリオール大神学院聖堂で司祭に叙階された。帰国後は長崎大司教区書記長、八幡町教会主任司祭を歴任し、一九七〇年一月十八日鹿兒島司教に叙階された。それから二〇〇六年に教区長を引退するまで、鹿兒島教区があらゆる面で独り立ちできるよう教区の基礎作りを東奔西走してきた。



組んでいこう」とメッセージを送った。講話後は昼食を挟んで分科会が開かれ、信仰年を機に一人ひとりが、そして教

六十周年の記念ミサには郡山司教と二十四人の司祭、三人の助祭が集まり、二百人を超える信徒と共に糸永司教のこれまでの働きに感謝すると共に今後ますますの活躍のために祈りをささげた。

新風

多くの方々の祈りに支えられて九月九日、「鹿兒島司教区教区評議会」が開催されました。その席で信仰の危機は具体的に小教区の危機として存在していることを私たちは今一度確認し合うことができました。その上で今回の教区評議会のテーマである「キリストを信じる喜び」に示されているように、キリストの光に照らされ

教区評議会と信仰年

て、その打開策を探り、しかも具体的に実行可能な方法を見出すことがこの評議会に求められました。次回から、司教様からの具体的な提案を基軸におきながら、小教区で分かち合っ

とは思いますが)掲載させて頂きたいと思えます。さて教皇様は来たる十月十一日から来年の十一月二十四日(王であるキリストの祭日)までを「信仰年」と定められました。それはヨーロッパのキリスト教国家の多くで、今まで前提にしていた信仰がもはや前提ではなくなったことに起因しています。教皇様はそれを「信仰の深刻な危機」と呼んでいます。

信仰年を迎えるにあたり鹿兒島教区が取り組むことは教区評議会の具体的な提案を実行して行くこと、そして、それを祈りの力で継続して行くこと、それが教皇様の意向にも沿うことになると考えます。すばらしい信仰年になることを願って、祈りの中に：(教区本部 寝占敦之)

区が取り組むべきことについて熱心に話し合った。分科会での内容はその後全体会で紹介され、またそれぞれの議事録は本部に提出された。今後は司祭評議会等で分科会での提案を

分析し、教区の実施方が検討されることになる。今年(紫原)、碓スミ、幸村キヨ子、木村シゲ、中野あさえ、順アイ、森田ミフ、白石スナ子、伊藤ミツエ、上田正一(徳之島)、蘭牟田恵美子(吉野)、大川愛順(鹿屋)、杉山豊彦、六田タイ、岡崎てる子(加世田)、二反サミ(川内)、久留平、池田珠子、牧カツ(聖心)、大窪菊江、近藤芳樹(小宿)、谷村サチ子、梁川良、種子島セイ子、有川知佐子(ザビエル)、田畑和江、精松秀子(古仁屋)

長生きしてね! 司教が米寿を祝福

九月十七日の敬老の日を前に教区では、今年米寿(八十八歳)を祝う人たちに司教の「祝福」カードを送付した。

教区全体で今年米寿を迎えたのは以下の三十二人。[敬称略]勝久幸枝、寝占六郎(鴨池)、添田清子、木村吉治、田代澄子、川越弘子(玉里)、中島久子

ミサの終わりにには聖堂内で式典があり、席上挨拶した糸永司教は「私はダイヤモンドのように強くもないし、光り輝いてもいない。しかしこんな私を我慢して六十年の間、使って下さった神のあわれみは光り輝いている。これからの力もサと祈りをささげ、またインターネットを利用して宣教していきたい」と衰えない意気込みを語った。この日の記念ミサには糸

永司教の兄弟たちも各地から駆けつけ、鹿兒島の信者たちと喜びを共にした。糸永司教はこの日を迎えるにあたり、司教がインターネット宣教のために開いたブログ「カトリック時評」に掲載した第二バチカン公会議を振り返った小論を本(第二バチカン公会議に学ぶ)にまとめ出版、これを記念のカードとともに信者たちにプレゼントした。糸永司教は「教皇は第二バチカン公会議に立ち返ってやり直せと言われた。この本を読んで信仰の危機を脱する手がかりとして欲しい」とメッセージをくれた。ミサ後は、教会ホールで信徒との交流会があり、大勢の信徒が糸永司教と喜びのひとときを過ごした。

イエス様の時代の献金箱は現代のそれとは大きく異なり、神殿の壁に貼り付けられていました。そして、それは半分に割ったトランプットのようなかたちをしており、お金を入れると音が出るように細工されていたようです。つまり、お金を多く入れれば派手な音が出るという随分と趣味なものであったようです。

さて、やもめの献金の話を思い出してください（マルコ12・41〜44）。イエス様は貧しいやもめがレプトン銅貨二枚を献金するのを

見て「だれよりもたくさん入れた」と弟子たちに言います。レプトンとは「薄く皮を剥ぐ」という動詞からのもので、彼女が献金箱にこの銅貨を二枚入れた

スーさん（鈴木助祭）のやさしいみことば

やもめの献金を巡って

たとしても、音はほんのわずかばかりしか鳴らなかつたことでしょう。これ見よがしに大きな音を立てて献金する裕福な者たちの間にあって、もしかしたらこの

貧しいやもめは惨めな思いをしていたかもしれませぬ。しかし、イエス様は彼女が誰よりもたくさんのお金をしたこと理由として、「皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである」と説明します（12・44）。このイエス様の言葉から、ここで

は献金の多寡が問題となっていないのではないことがわかります。

ところで、ここで「生活費」と訳された単語ですが、原語では一義的に「生活」「生涯」、そして「一生」という意味があります。これに次いで「生活費」とか「財産」といった意味をもちます。

つまり、イエス様がやもめの献金に目を留められたのは、この貧しいやもめが自分の生き方を通じて信仰を現していた、という点にあるようにも思えるので

す。イメージを膨らませば、当時の人々の献金は神殿の維持だけではなく慈善目的にも使用されていたことからも、もしかしたら彼女はこの献金から施しを貰う立場だったかも知れません。そして、彼女の献金はその施しに対する感謝の献金だったかもしれないのです。こうしたことを踏まえ、この箇所を読むとヤコブの手紙にある「行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです」という言葉が思い起こされます（ヤコブ2・17）。

被災地から学んだこと

赤尾木教会 三井直子

「悲しいこともあるだろうさ 苦しいこともあるだろうさ だけど僕らはくじけない 泣くのはいやだ 笑っちゃお 進め…」

今年八月、「ひよっこりひょうたん島」のモデルになった島のある岩手県大槌町へボランティア活動をするために出かけました。大槌町は昨年の東日本大震災で壊滅的な被害を受けた地区の一つです。主要都市から車で数時間もかかる立地条件も災いし孤立状態が長く続いていました。震災の犠牲者、行方不明者合わせて千二百八十一人、今でも約四千人の人が仮設住宅で暮らしています。

「貝殻きれい」「砂が気持ちいい」「砂絵初めてした。面白い」子どもたちは予想以上に喜び、笑顔を見せ、作品作りを楽しんでくれました。砂場作りでも奄美出身の友人たちに抗菌砂の募集を呼びかけ、砂場に搬入することができました。

被災後に林業のNPOを始めた男性は「人間すべてを失うと何も怖くなくなるんだよ」と、大槌の町や自然を復活させたい思いを熱く語ってくれました。

奄美からでも何かできることをしたい。被災地の子どもたちが少しでも笑ってくれたら…。そんな思いで

参加した今回のボランティア、辛い環境でも笑顔で懸命に頑張っている人々に触れ、私は自分自身を振り返り、恥ずかしさも覚えませんでした。

東北から離れた奄美大島からでもできることはたくさんあります。募金や支援活動に参加する、直接被災地を訪れる…でもまずは被災者から学び、日々を一生懸命生きていくこと、そこから始めたいと思います。

聖モニカの記念日の前日、八月二十六日（日）に小宿小教区女性部会では黙想会を開いた。これは前任のダウン神父指導のもとに聖モニカを同会の保護者として私たちが子供、家族、教会共同体のため、また地域のために聖モニカに倣って祈ることを目的としたもので、三年前に始められた。今年の黙想会には地区典礼委員のために講座を開いている鈴木助祭を招き「聖餐（ミサ）にあずかることは一体どういうことなのか」「ミサに積極的に参加するために」をテーマに指導をしてもらった。

鈴木助祭はミサの祈り等について、細部にわたって説明し、参加者たちはミサにおける祈りの意味を再確認することができた。

この日はあいにく台風が接近していたため、他の小教区からの出席はなかったが「この小宿女性部会の活動を理解してもらい皆に祈りの輪を広げていこう」と誓い合うことだった。

（報告・久保 正子）

今回私は国際NGOグットネーパーズ・ジャパンと大槌町社会福祉協議会が連携して実施する「子どもわくわく広場」、同じくグッドネーパーズと神戸大学の学生との「児童館への砂場作り」のボランティアに参加しました。双方とも「子どもたちへの遊び場の提供

微力ながらも被災地の子どもたちの笑顔に触れることができた満足感と同時に、何もなくなってしまう町や終わりの見えない仮設住宅での暮らしを目の当たりにして、今後の復興に向けての不安も覚えました。

「ボランティアに直接行けないけど、奄美からで

文芸

短歌

国分教会 市来 房枝

堅信を受くる十人撮さむと携帯カメラに梃子摺りてをり

鹿兒島純心 川上 和

麗しき御母に捧ぐロザリオの祈りの絆虹の架け橋

鴨池教会 前田 儀子

合歓の花けぶるがごとき山路来て墓までつづくゆるき坂道

愛光園 春山マリ子

楽しいなあ生まれたことが感謝です残り少ない人生大事

俳句

霧島市 政 ノブ子

前夜祭御母を祝う秋の虫

鹿兒島純心 川上 和

行く夏や白雲流るマリア塔

出水市 沖 弘子

かなかなの声沁む里や殉教碑

鹿兒島市 徳永ノブ子

手すりあり爽やかなりシミサ主日

愛光園 春山マリ子

嬉しいと思う心に秋の風

純心学園 山頭 信子

幼児の洗礼受けてトンボ舞う

神と出会う イエス・キリストと出会う 自分と出会う

カトリック通信講座

どなたでも、いつからでも、どの講座でも、ご自分のペースでご受講いただけます。

やさしく解説されたテキストを通して、キリストと出会い、喜びを持って生きる新たな日々へと導きます。信仰年の始まりを機に、「無縁社会」とよばれる現代のなかで、キリストの教えに触れたい方や、より学習を深めたい方にも最適です。「幸せな結婚」講座は結婚準備のためにも好評です。

<全7講座>

T001 キリスト教とは キリスト教の概要をやさしく説明。

T002 聖書入門〔I〕 四福音書を通してイエスの生涯をたどる。

T003 キリスト教入門 秘跡や信仰生活など。受洗準備にも。

T004 神・発見の手引 人生、自然などを通して神に気付く。

T005 聖書入門〔II〕 使徒言行録、書簡集、黙示録を扱う。

T006 幸せな結婚 結婚の意味や愛、幸福などについて。

T007 生きること・死ぬこと

受講料：T001～T004 4500円
T005～T007 5000円

<お申込み方法>

郵便局に備え付けの振替用紙にご希望の講座名・講座番号（T001～T007）をご記入のうえ、受講料を下記にお振込みください。

振替口座番号：00170-2-84745
加入者名：オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ・お申し込み>

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
Tel：03-3322-7601 Fax：03-3325-5322
URL：http://www.oriens.or.jp
携帯サイト：http://www.oriens.or.jp/mobile/

ご希望の方にはパンフレットをお送りいたします。

大島地区教会学校の集い

大島地区青年部 碓山 誠



八月十一日(土)、大島地区青年部主催で「大島地区教会学校の集い」を開催いたしました。私たちが小学生だった

頃は、毎年、教会学校の夏休み中のイベントとして赤尾木カトリック研修センターでのキャンプがあり、非常に楽しかった思い出として今でも鮮明に覚えております。しかし最近の小教区の現状を鑑みますと、私たちの親世代の教会離れにより、教会学校の子どもの数が激減し、小教区によっては教会学校もできない所があるのが実情です。そこで何か青年部でできないかと瀬留教会の柄尾神父様と話をし「あの楽しかった教会学校の赤尾木キャンプを復活させたい」と考え企画しました。

当日は小宿教会から五人、マリア教会から三人、聖心教会から三人の十一人の子どもの参加がありました。これに子どもたちの保護者、久保神父様(マリア教会)、永山神父様(聖心教会)が加わって下さいまして、総勢二十五人のキャンプとなりました。子どもたちは各教会の友達と一緒に海で泳ぎ、カヌーに乗ったり、お昼はみんなが楽しみにしていたバーベキューで美味しいお肉と焼きそばを食べました。昼

四十周年とバリアフリー化を祝うー吉野教会

吉野教会(牧山田一神父)では、高齢者に優しい教会にするため教会入り口にス

手編みのロザリオ

司教執務室だより

神学生の頃、長崎出身の神学生からロザリオの編み方を教えてもらったことがある。専用のペンチと細い針金、それに十字架と珠も取り寄せてくれた。一本仕上げるのにずいぶん時間がかかった記憶がある。

数年前、一年後輩の司祭から、手編みのロザリオをもらった。いまだにロザリオを手編みする司祭がいると知って驚いたが、一本を編むのに二、三〇分と聞いて二度びっくりした。アントニオ助祭からは青い紐で編んだロザリオを、ドミニコ助祭からは、黒い珠の光るやはり手編みのものを進呈された。他に、韓国の御婦人に頂いたもの、今は亡き修道士を志した青年から頂いたものがある。そうそう、珍しいところでは、カンナの花の種で作ったものもある。長崎でボランティア活動をしている元神学生にももらったものだ。これらのロザリオを日替わりで繰っている。使った



人々のことを思いながら祈ることになる。そうしているうちに、ふと思いついたのが、ロザリオ運動。つまり、手編みのロザリオを進呈し合う運動。二人の助祭が指導者になってくれることを了解してくれた。それに、韓国から取り寄せる材料が安価で入手できるという。先月の教区評議会用アンケートを見ると、信者の高齢化が案じられていたが、手が元気であれば、ロザリオが編める。信者同士はもちろん、遠くの子や孫にもプレゼントできる。一人住まいでも手持無沙汰になることもない。ミサに行けなくても、一珠一珠にお祈りを込めて編めば、まさにロザリオ、バラの冠をマリア様にお捧げすることができる。前にもふれたように、工夫次第では、いろいろな素材が見つかるに違いない。現に「母はビーズで編んでいます」という人もいる。材料だけでなく、教えてくれる「先生」も身近なところで見つかるかもしれない。子供から高齢者まで、せつせつとロザリオを編む姿は想像するだけで楽しくなる。そして、得意げに交換し合う姿は、もっとほほえましく、マリア様も目を細めて喜ばれるに違いない。これも祈りの教区の一つのイメージだ。

食後もスイカ割りやゲームの時間があつたほか、かき氷やアイスクリームをほおばり、子どもたちには楽しい時間となったようです。今回のキャンプは泊まりがけではなく、一日で終了する形で実施しました。また人数も少なかったのですが、今後はもっとたくさんの方の教会学校の子どもたちの出席を呼びかけて、各教会間の交流を図るために第二回、三回とこのようなイベントを実施していきたいと思っております。

ロープと手摺りを設置し、八月二十六日(日)のミサ後、祝賀会を行った。また同時に教会献堂四十周年記念し、郡山司教と一緒に大勢の信徒たちがこれまでの歴史を振り返り、また今後の飛躍を誓った。



ザビエル書院の窓



ベネディクト十六世 イエスの祈り 定価 八五〇円十税 ペトロ文庫 カトリック中央協議会

信仰年を迎えるにあたってぜひ読んでほしい一冊。一般謁見で行った祈りに関する連続講話集。祈りの意味をあなたに伝える。

タム神父の令弟 司祭に叙階

タム神父(種子島教会)の令弟パウロ・グエン・ホン・ティンさん(三十三歳)が八月二十三日(木)サレジオ会の司祭として、ホーチミン市はトウドク町の教会で司祭に叙階された。この叙階式には鹿兒島からタム神父、アン神父、美島神父、小隈神父を含む十五人の巡礼団が参列し、荘厳な典礼と司祭誕生の恵みに浴した。

10月の会と催し

- 2日(火) フランシスコ祭
 - 5日(金) 牧山田一神父叙階記念日(一九六一年)
 - 7日(日) デクルス神父命日(一九八〇年)
 - 10日(水) 年間第二十七主日
 - 11日(木) 福崎英雄神父叙階記念日(一九八九年)
 - 12日(金) 「信仰年」始まる
 - 14日(日) アッシュヤー神父霊名(聖マックス)
 - 15日(月) 年間第二十八主日
 - 18日(木) レンブートル会例会
 - 18日(木) ホリスティック聖書講座「マタイ七章裁きと愛」・ザビエル教会集会所・10時〜12時
 - 19日(金) スピリチュアル研修会「スピリチュアルケアの実践」(講師 成克志神父)・ザビエル教会及び教区本部・9時30分〜17時・参加費五千円・申し込みはファックスで臨床パストラル教育研究センター南九州ブロック本田さんまで(Fax)〇九二一五二一八八九〇
 - 20日(土) 連合壮年会主催黙想会「信仰年」(講師 頭島光神父)・ザビエル教会ホール・18時30分〜20時・20日まで(9時講話、11時ミサ、12時昼食、13時講話)・参加費無料
 - 21日(日) 宣教学校・教区本部・13時30分
 - 21日(日) 年間第二十九主日
 - 24日(水) 世界宣教の日(献金)
 - 25日(木) 大水如安神父命日(一九九四年)
 - 27日(土) 東研神父叙階記念日(一九六四年)
 - 28日(日) 大松正弘神父霊名(聖ジェラルド)
 - 31日(水) 年間第三十主日
 - 31日(水) オリープの会・教区本部・14時
 - 31日(水) ミタマヤ神父命日(一九八四年)
- 11日〜19日 信仰年に際して

+KABAYAN SEKSIYON+ "PAGBUBUO"

Sa tuwing ipinapahayag natin sa Kredo ang katotohanan na ang Diyos ay Ama at Makapangyarihan, itinatagala natin ang ating mga sarili sa isang natatanging pananaw at estilo ng pamumuhay. Ang paninindigan ang Diyos ang ating Makapangyarihan Ama ang nagbibigay ng saligan hindi lamang para sa lahat ng ating mga itinatanging pagpapahalaga kung paano natin nais, mag-isip at kumilos, mag-ingat at manalangin.

Moral na Bubay. Ang unang utos ay nagbibigay sa atin ng isang ganap na halimbawa ng kaugnyanan ito sa pagitan ng paniniwala sa Diyos nating makapangyarihan Ama, at sa angkop na pagkilos. *Una, ang katotohanan: "Ako ang Panginoon mong Diyos, na naglabas sa iyo sa lupaing Ehipto, sa bahay ng pagkaalipin. Pagkatapos ay ang pagkilos: "Huwag kayong magkakaroon ng ibang mga diyos, maliban sa akin" (Ex20:3).*

Ang ating *utang na loob* sa Diyos nating Ama ay nangangahulugan ng pagtakwil sa lahat ng ibang mga "diyos" maging ito man ay kayaman at mga pag'aari, karangyaan sa mata ng tao, o kaya'y makamundong lakas at tagumpay. Nangangahulugan ito ng pagtanggap sa magkahiwalay na uri ng buhay ng Kristiyano na nag-aalay ng papuri ng labi sa Panginoon isang araw sa isang linggo (o kaunti pa!) at madalas na kumikilos nang di-iba sa isang pagano sa lahat ng oras. Ang manalig sa Diyos na ating makapangyarihan Ama ay nangangailangan ng tunay na *pagbabagong puso* na siyang tangiang magbubun-sod sa sukdulang pagbabago ng estilo sa pamumuhay na siyang bumubuo ng tunay na buhay kristiyano.

Iwinawaksi ng *panlipunang dimensyon* ng tunay na estilo ng pamumuhay ang lahat ng uri ng *pagkakanya-kanya* ang pag-Aaruga lamang para sa ating sariling pamilya, *barkada*, pang-kat o rehiyon. Dahil ipinagkakait nito na tayong lahat ay mga magkakapatid sa Diyos, ang makalangit nating Ama. Nanana wagan ang Pananampalatayang Kristiyano para sa *panlipuna ng pagkahusto* ng isipan na kumukilala sa ating mga pananagutan sa pamayanan. Ang *Pakikisama* ay nararapat na timbangin ng *bayanihan*.

Bubay-Panalangin. Sa sentro ng lahat ng panalanging Kristiyano ay ang Diyos bilang Amang makapangyarihan. Sa pagdiriwang ng Eukaristiya, nagsisimula tayo sa pagkukumpisal ng ating kasalanan sa "makapangyarihan Diyos." Sa Papuri tayo ay sumasamba, nagpapasalamat at nagpupuri sa "makapangyarihan Diyos at Ama." Ito ang pagsamba "sa Espiritu at katotohanan" (Jn4:24) kung saan si Kristo ay ipinahahayag sa pamamagitan ng panalangin at pagsamba. Ang ating mga pansariling debosyon ay dapat nakabatay sa tunay na panalanging liturhiko ng Simbahan sapagkat *HISA* lamang ang Diyos at "Siya lamang ang inyong paglilingkuran" (Dt.6:13 Tinitiyak ng panalangin ng Simbahan na ang ating mga pansariling debosyon ay di-lubusang naisasagawa kasama ng mga palagian kahilingan, kundi pati ang mga mahalagang dimensyon ng pagsamba, pasasalamat at papuri. Bilang pang-wakas, ang matapat at personal na paninindigan na ang Diyos ay tunay nating makapangyarihan Ama.

Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orloff)

一 イエズス会とザビエル

皆さんは、ザビエルの属していたイエズス会が解散させられ廃止されたことをご存じでしょうか。

一七七三年、教皇クレメンス十四世によって解散廃止させられたのです。カトリック教会を守って、教皇さまに忠実に従い、カトリック教会の親衛隊的役割を担っていたにもかかわらずです。神の国の実現のため身を粉にして働いていたイエズス会の成功を嫉んだ勢力によってでした。こういうことはしばしば起こります。

しかし、それが神のみ旨でなかったことは、一八一四年、教皇ピオ七世によって再開されるに至ったことから明らかです。一度、教皇によって、解散廃止された修道会が復興された例はほとんど見られません。にもかかわらずイエズス会が復興されたということは、神のみ旨であれば、人間的な思考があつて障害がなされていくというものの好例であるように思うのです。

その不屈の精神を持ち、神の恩寵が注がれているイエズス会の宣教(ミッション)スピリットを持った宣教師こそ、ザビエルであつたのです。ザビエルは、まさに、戦う修道会の、戦う宣教師であつたのではないのでしょうか。何のために戦つたのでしょうか。神の国の実現、即ち、キリストの愛と真理の生き方を伝える為にです。

二 イグナチオとザビエル

ザビエルは、世間的な

出世と野心を求めてパリ大

「人が全世界を得ても、自分の生命(心・魂)を失つたら、何の益があらんや」という聖書の言葉をイグナチオはザビエルに与え、ザビエルを回心に導き、イエズス会創立に参加させ、東洋の使徒として派遣させるに至らしたのです。ザビエルの使命、それはイグナチオのスピリットを伝えることでもあつたのです。

イグナチオは、こう言っています。「もし、神があな

キリシタンの歴史 八

フランシスコ・ザビエル (下)

溝辺教会主任司祭

坂本 進

あなたを偉大にしようと思

(トムソン『イグナチオとイエズス会』二〇一頁)

イグナチオは、イエズス会が妨害を受けずにつつがなく発展しているところが

「私に神に語りかけるよりも、神より語りかけることの方が多

ザビエルも「危険や困難に遭遇するのは、神がすべ

ての道を導いておられる主であることを、人間に悟らせ、神にのみ拠り頼むことを知らせる神の摂理である」と述べています(アルペ『聖フランシスコ・ザビエル』一四四頁)。

鹿兒島に上陸し、日本にキリスト教をはじめて伝えられたザビエルを讃えるとは、ザビエルの精神(スピリット)をより深く学び、私たちがザビエルの精神をもつて、私たちの周りの人々に接していくということではないでしょうか。

そのためには霊父としてザビエルの師であり、イエズス会の創立者であつたイグナチオの霊性を学ぶことと、イエズス会の宣教方法

を学ぶことも大切です。

三 イエズス会の布教・教育の実例

教育方法の一つの例を、崩壊寸前の日産を立て直したマロン派のカトリック信者カルロス・ゴーンさんの例から見てみたいと思

ゴーンさんは、レバノンに帰郷。レバノンのフランス系イエズス会の小学・中学・高校で一貫教育を受けました。卒業後、フランスのエリート養成機関のグラ

ミシユラン会社に入社。ミシユランのブラジル、北米

シユランのブラジル、北米などの責任者を歴任した後、車のルノーに転社。日本の日産を立て直すために来日し、今に至っています。

彼は日産を立て直すにあたり、リストラを行ったとき、ラオの考え方は解雇ではなく、新陳代謝ということ

彼は高校の時、先生の言うことを聞かず反抗的で、校内でも有名な反抗児であつたそうです。退学処分になる寸前のところ、彼はフ

す。この神父さまは「人にはそれぞれ欠点もあれば長所もある。欠点は長所に転換できるものであり、長所をもつと生かし伸ばさせる

ことによつて、欠点は長所に昇華されていくのである」とおっしゃつたそうです。

人は皆、神によつて素晴らしいものとして創造されていきます。教育の目的は神より与えられた賜物を引き出し、生かし、使い、伸ばしていくところにあります。

このイエズス会の神父さまの人間に対する対応の仕方は、イエズス会の宣教の仕方でもあると思

この神父さまに感謝している、とのこと。イエズス会教育の基本、

それは、まず「あなたは、神から創造された素晴らしい存在です。自信を持つてい

「あなたには、神から創造された素晴らしい存在です。自信を持つてい

使命がある」ことを伝えていくということ。そこにはまた訓練も必要不可欠とされてきます。

四百六十年前に日本にキリスト教を伝えたイエズス会士フランシスコ・ザビエルの神父が宣べ伝えた福音のメッセージも、今日の福音

は、四百年前と変わっていません。

四 イエズス会の教育と布教方針(抜粋) ザビエル神父がインド、マラッカ、そして日本において実践しようとした宣教のスピリットの源泉は、すべて『霊操』と『イエズス会学事規定』に依拠して

「イエズス会学事規定」の現代的展開である『イエズス会教育の特徴』(一九

八六年二〇〇五年新訳)の内容をご紹介しながらザビエル神父の時代と現代、両者の布教方法と信仰養成方法を探つてみることにいたします。



ザビエル城

1 イエズス会教育は、生徒の主体性を大切にす

2 生徒が学ぶ喜びと学習への意欲を身につけ、生涯学び続けられるよう、助ける。

3 心(神)に対する感性・内的声への応答・感謝・敬虔の念を育む。

4 創造性、主体性、感性を養う。美しいものに感動し、美しいものを創造する心を養う。

5 情報を的確に受け、伝達するコミュニケーションの能力を育てる。

6 心身の鍛練を計り、協力の精神を育てる。

7 理性(洞察力、論理的思考力、善悪と正邪の判断力)を磨く。

8 意志力(決断力、行動力)を育てる。

9 両親に対する孝行をはじめ、兄弟愛、友情、隣人に対する配慮と奉仕の精神を養う。

10 国籍や文化、言語、宗教を越えた連帯の意識を高める。

11 日本の文化を継承し発展させようとする心と世界に開かれた国際人の養成に努める。

12 自分の心の中にある悪への傾きや社会の中にある様々な悪と戦う勇気を持ち、自己の変革と社会の改善を目指す。

13 卓越性(excellence)を追求する教育を行う。卓越性とは、人よりも優れているという意味ではなく、自分に打ち克ち、たえず現在の自分を越え、自分に与えられた能力を最大限に伸ばすことである。

14 絶えざる刷新を求め教育を行う。過去に良かったものでも、現代には通用しないものがある。従つて、社会の変化に敏感となり、絶えざる反省と評価を必要とする。「時のしるし」を読み取り、必要な変革への道をより良く識別できる教育を行う。

私たち鹿兒島教区は、これらイエズス会の宣教、教育方法からつと学び、フランシスコ・ザビエルの精神を今に生かしていくようにしたいですね。次回は、キリシタンの時代におけるフロイス、ヴァリニヤノなどのイエズス会士とフランシスコ会士・ソテロについてお話ししたいと思います。